

神様の祖国創建を果たす天の役軍となれ

韓国で「2017 年天一国指導者 新年特別集会」



希望に満ちた 2017 年が明けて間もない 1 月 3 日、韓国・天正宮博物館において、真の父母様を中心に「2017 年天一国指導者 新年特別集会」が開催され、韓国、日本、米国の中心指導者およそ 300 人が参加しました。

趙誠一^{チョソンイル}世界本部長の司会で始まった第 1 部では、柳慶錫^{ユギョンソク}・韓国家庭連合会長が報告祈祷。「真の父母様を 70 億人類の前に証ししながら、国家の復帰と国民宗教の基盤を確立し、2020 年の天一国実体化に向けて堂々とした足取りで孝情の光となります」と決意表明しました。

鄭元周^{チョンウォ}総裁秘書室長が「世界平和国会議員連合」北米大陸創設大会における真の父母様のみ言を訓読した後、紫色のスーツをお召しになった真のお母様が登壇し、み言を語られました。

お母様はその冒頭、丁酉^{ひのととどろ}の年、“赤い鶏”の年を迎え、私たち家庭連合が天の摂理、天の父母様の夢、真の父母様の夢、人類の願いを成してさし上げるために最も先に求めるべきものが何ですか？」と



問いかけられ、真の父母様を中心に皆が一つとなり、2020 年に向かって天の父母様の祖国創建の責任を果たすよう願われました。

最後に、お母様は参加者を立たせた上で、「私たちは 2020 (年) に天の祝福を受けるこの民族、この国となるために……必ずや神様の祖国として世界を抱く、今日の皆さん(私たち)となることを祝願します。誓います。誓います。誓います」と述べて決意を促し、み言を終えられました。

第 2 部の特別午餐会では、徳野英治会長の音頭で“勝利提議”(乾杯)を実施。徳野会長は「日本とアメリカで開催された『世界平和国会議員連合』創設大会の大勝利を通して、天が私たちと共におられることを目の当たりにしました。今こそ、私たちは真の父母様を中心に一つになりましょう」と呼び掛けました。

午餐の後、金起勳^{キムギフン}北米大陸会長と日本の宋龍天^{ソンヨンチョン}・全国家祝福家庭連合会総会長が特別報告を行いました。



その中で宋龍天^{ソンヨンチョン}総会長は、「VISION2020 勝利に向けた日本の 2017 年の戦略」というタイトルで、2016 年の活動報告や、120 日路程と 7 つの重点事項を中心とした 2017 年の戦略を発表。VISION2020 の勝利に向けて重要なこの 1 年は、家庭連合時代の“フレーム”でもって完全定着を成しながら、改革の定着と社会的な価値創造を通じた長子権復帰の基盤をつくっていく考えを明らかにしました。

引き続き、訓読室で日本とアメリカの中心指導者だけが参加した特別集会がありました。

その中で真のお母様は、6000 年ぶりに生まれた天の子女の中には人材がいないと語られながら、「皆さんが理想の後継者を探し立てなければなりません」と強調。その上で、「私がこのように苦勞して皆さんを悟らせなくても、皆さん自身が成熟して結果を報告することができる者となりなさい」と語られました。

最後に、李海玉^{イヘオク}総会長夫人が報告祈祷を行い、この日の特別集会は幕を閉じました。

真のお母様のみ言 (一部抜粋)

今、ここに集まった皆さん方は 6・25 戦争(朝鮮戦争)に参加した人はあまりいないと思います。私たちが作戦中に最も重要な高地を奪還してこそ勝利し得ると考える時、いま現在、皆さん方が処している高地はどこですか? 「国家の復帰」という高地です。

私たちの高地奪還のためには皆さん方が一つにならなければなりません。高地を奪還するという目標が一つでなければなりません。そこに総進軍する決意を持っていますか? (「はい」) そのようになれば、この丁酉年は希望があるでしょう。

これまでお父様に、責任を成して奉獻し得なかった、この課題を必ずや成してさし上げるというそのような決心の下に皆さん方が総進軍するならば、私たちはできます。

* * *

真の父母の教えに一つになり得る国は栄え、一つになれない国は滅びるのが原則です。

それで今年の初めから議員たちの發議を集めて、議員連合創設を皆終えました。米国、ローマ時代の元老院のような所に行って、私が真の父母だといいました。真の父母と一つになって進んでいこうと話しました。混沌の中で人類の前に明確に真実を明らかにしてあげる真の父母。皆さん方はありがたく感謝をもって侍らねばなりません。

議員連合を中心として教育していかなければなりません。そのようにできるように天は私たちに機会をくださいました。

摂理を完成させるみ旨發展のために、生が尽きる日まで、必ずや国家の復帰、世界の復帰を、私が父母様に侍って成し遂げるという覚悟で立たなければなりません。

①特別報告を行う宋総会長 ②午餐会で勝利提議を行う徳野会長 ③ケーキカットをされる真のお母様と文善進世界会長 ④1月1日に行われた「2017 年天一国指導者 新年特別朝餐会」でみ言を語られるお母様 ⑤全体で万歳四唱を行い閉幕した

家庭連合時代の* 信仰観と摂理観を 完全に定着させることの できる1年にしよう

全国祝福家庭総連合会 総会長
ソン ヨンチョン
宋 龍天



愛する祝福家庭、そして食口の皆様！明けましておめでとうございます！

希望の新年が明けました。去年を振り返ってみると摂理的に多くの出来事と実績がありました。その中でも最も重要だったのは、世界平和統一家庭連合としての最初の1年を過ごしたことです。

真のお父様の聖和3周年に祝福の恩賜として頂いた家庭連合の意味を私たちが正しく知り、家庭連合が進む正しい方向性を定め、5月の全国牧会者研修と8月の婦人代表研修を通じて指導者たちが摂理的な時を知って、家庭連合時代にふさわしい信仰を新たに確立しながら、それまでの統一教会時代で私たちに染みついた習慣的な信仰姿勢を振り払い、新しく生まれ変わることのできる1年でした。

まるでサナギから脱皮して蝶が誕生するようであったこの過程は今も続いており、今年を通してこの改革は完全に定着されるのです。

このような私たちの方向性に合わせ、真の父母様も2度にわたって日本を訪ねてくださり、唐津の奇跡とともに「国際指導者会議（ILC-Japan）」の大勝利を収めました。

これを基盤として、天が導いてくださった家庭連合の方向性に合わせ、2017年の活動指針を次の通り決めました。

一つ目は理想家庭と心情共同体完成、二つ目は神氏族メシヤ活動と1200認定家庭教会の定着、そして三つ目は二世圏活性化と祝福推進強化、そして最後の四つ目は社会貢献と救国救世基盤造成と決めました。この四つの活動指針を一つのテーマとして掲げるとすれば、それはまさに「家庭連合時代の信仰観と摂理観の完全定着」と表現することができます。

家庭連合時代の正しいフレームとは、個人の救援から家庭救援時代への時代的転換であり、宗教圏の時代から宗教圏完成時代への昇華・発展であり、原理的な土台の上に真

の父母様の路程とみ言を实践する実体時代であり、一つとなったカインとアベルが真の父母様に侍る侍義時代です。

そのために、最終的にはすべての家庭が天の父母様と真の父母様に自分の家庭で侍り、み言を实践躬行して家庭天一国を完成し、氏族天一国を勝利する生活を実体的に生きる勝利した神氏族メシヤ時代であるということです。

このような家庭連合の時代的フレームを正しく認識し、このフレームを完全に定着させることこそ、天一国を創建する近道なのです。

私たちには夢があります。自分自身が天の父母様の実体になる夢、私たちの家庭が天の父母様と真の父母様に侍り、氏族を祝福に導くという夢、日本が世界の前に勝利した母の国としてそびえ立つ姿を見る夢、そして全人類が真の父母様の下で一つの家族として暮らす夢です。

この夢を今年1年で全て実現することは難しいでしょう。しかし、私たちがぎょう歩いている重い一歩をその夢を実現するための偉大な足跡として残していきましょう。

そして、日本の家庭連合は、天の父母様、真の父母様と一体となって歩んでいるという決定的な事実を勝利の結実で証明してみせましょう！さらに今年引き起こされるどのようなサタンの妨害にも屈することなく、必ず家庭連合を定着させ、真の父母様に侍ることのできる勝利した祝福中心家庭となりましょう！

愛する祝福家庭、そして食口の皆様、今年1年も、いつも休むことなく私たちを導いてくださる天の父母様と天地人の真の父母様に無限の感謝と頌栄を捧げ、日本のすべての祝福家庭と食口、そして日本の国民の上に天の父母様と真の父母様の無限なる祝福の恩賜が共にあることをお祈りいたします。

祝福家庭そして食口の皆様！心から愛しています。そしてありがとうございます。

爆発的伝道を勝利し、* 母の国に対する天の願いを 全うしよう

世界平和統一家庭連合 会長
徳野 英治



全国の世界平和統一家庭連合の会員、食口ならびに祝福家庭の皆様、明けましておめでとうございます。天の父母様と真の父母様の恩恵と祝福が、皆様すべての家庭の上にあらんことを祈念してやみません。

年頭の挨拶として、以下の5つの点を強調したいと思います。

第1点は、昨年2016年、真の父母様から日本は限りなく愛されました。

特に10月初めには日本の公職者800人を韓国の天正宮博物館と龍平リゾートに招待して下さり、「韓日指導者和合統一出征式」を主管して下さいました。11月には非公式的に1回訪日され、公式的には日韓トンネル唐津調査斜坑の現場を初めて訪問して下さいました。そして1年を通して、事あるごとに日本の教会幹部を招待して下さい、み言と愛と心情を投入し、天運を日本に連結して下さいました。

2点目として、真のお母様が昨年語られたみ言の中で、特に印象に残ったみ言を2つ列挙したいと思います。

第1に、真の父母様への親孝行は真の父母様が地上におられる時にすべきであり、真の父母様が霊界に逝かれた後に孝行を尽くしても価値が全く違ってくる、という内容です。2番目は、神様が立てられた摂理の中心人物を人間的な次元で見つめてはならず、その中心人物と一体となってこそ、神の摂理が勝利的に展開する、という内容のみ言です。

3点目は、福島と岡山の現場で打ち立てられた象徴的な勝利圏について紹介したいと思います。

昨年12月18日、福島家庭教会は2000名クリスマス集会（食口400人、新規・再復帰1600人、国会議員1人、地方議員13人）を、岡山教区は3000名書写大会（食口約2000人、新規・再復帰1000人、地方議員10人）を大勝利しました。

全国にある約300の教会すべてが福島家庭教会と同様に2000人動員の基準を立てれば、そのまま2020年までに目指す会員基盤80万人のうちの60万人が見えてきます。

また岡山教区は、書写大会に参加した新規・再復帰1000人を原理教育して食口にしていりますが、同様に3000人核心食口基盤の基準を全国70教区において立てることができれば、即21万人の核心食口基盤が見えてくるのです。

そのような意味で、この度の福島と岡山の新規・再復帰のゲストを中心とした大会動員の勝利は、2017年の勝利的未来を占う、摂理的に極めて重要な勝利の金字塔です。天の父母様と真の父母様、現場の責任者、食口の皆様に心から感謝したいと思います。

第4点として、2017年こそ家庭連合時代に相応しい個人、家庭、氏族の基盤を築いていかなければなりません。宋龍天総会長がいつも強調されているように、家庭天一国、氏族天一国を打ち立てて行かなければなりません。家庭天一国を築くには、二世三世祝福の推進が不可欠であり、また氏族天一国を打ち立てるためには、神氏族メシヤ活動の推進が不可欠であります。

5点目は、真の父母様の先輩家庭に対する切実なる願いとは、以下の2つです。

まず1番目は、地上での残された信仰生涯において、決して晩節を汚すことなく、有終の美を飾ってほしい、表現をかえれば、最後の最後まで天の父母様と真の父母様への不変・不動の忠孝の美を貫いてほしい、ということです。

2番目は、神氏族メシヤを勝利するために、一瞬をも惜しんで一人でも多くの人を伝道してほしい、ということです。

この先輩家庭に対する真の父母様の切実な願いは、すべての祝福家庭に対しても普遍的に通ずる内容です。

私たちもそれらを心に刻んで、2017年、昨年以上に飛躍的、爆発的に伝道を勝利して、母の国に対するあらゆる天の願いを全うしてまいりましょう。そして真の父母様に、喜びと慰めと栄光と勝利の実績をお捧げする歴史的な2017年と致しましょう。

2017年・年頭の挨拶

真の父母様に照準を合わせて 飛躍しよう

副会長兼青年学生局長

田中 富広



新年、明けましておめでとうございます。

2016年は、天の摂理に逆行する「反グローバリズム」ともいえる波が拡がり、日本も対岸の出来事として見過ごすことができない影響を受けています。

「米国第一」主義を前面に打ち出すドナルド・トランプ氏の米国大統領就任も20日に迫っています。自由や民主主義の旗印の下、世界の価値観の牽引役がその位置を放棄しようとする今、その価値観と真逆の思惑を抱いた国家がとって代わろうと虎視眈々と狙っています。

欧州統合の理念に背を向けた英国のEU離脱、南シナ海と東シナ海、ひいては環太平洋を手中に収めようとする中国……。どこを見渡しても自国の利害をむき出しにする主張が対立を煽り、大衆を巻き込む「ポピュリズム」がそれを取り巻き、国民挙げての我欲が見苦しいほど前面に押し出されているのが現状です。

羅針盤を失った宇宙船地球号は何処に向かっていったらいいのか？

真のお母様は昨年12月1日、米国聖職者指導者会議(ACLC)のバンケットで次のように語られました。

「天が立てた中心人物に対しては一致しなければなりません。自分の考えや欲心があってはいけません。それが、私たちが天の前に進むことのできる条件になるのです」

今や、勝利された人類の真の父母様に照準を合わせる以外に、混迷を深める世界を收拾する道は無いのです。

真の父母を中心とした家庭の秩序と利他的価値観こそが、世界のあらゆる問題の解決の道であることを肝に銘じて、飛躍の2017年として参りましょう。

天の父母様の“夢”成就のため 完全投入される真のお母様

本部長
イソンマン
李 成萬



尊敬する公職者および食口の皆様、昨年1年間、み旨を中心として最高・最善の精誠を尽くしてくださり、心から感謝申し上げます。

希望の2017年を迎えました。2020年までの残り3年路程を通して、天一国を実体化し、安着させるのは、子女である私たち祝福家庭の使命です。

真の父母様と同時代に生まれたことも、先祖と人類と後孫万代を代表して召命を受けたこともこの一時のためです。年頭に当たり、この宇宙史的な使命こそ、全ての祝福家庭に与えられた祝福であり恩恵であることを改めて噛みしめています。

昨秋、真のお母様は2度にわたって日本を訪問してくださいました。日本が母の国としてお母様と一つとなり、必ず勝利してほしいという切実な心情を抱きながら、計12日間にわたって日本で特別精誠を捧げてくださったのです。

特に11月の日韓トンネル唐津現場のご視察は、「真のお父様が人類平和のために植えたすべての精誠と犠牲の種を、私が生きているときに必ず結実させる」というお母様の絶対決意の表現であり、この摂理の本格的な推進の起点となりました。

真の父母様の最大級の関心事であり、私たちが念願するところに天の父母様が役事されます。全知全能であられる天の父母様が共におられるならば、不可能な事はないはずです。

真のお母様は、天の父母様と真のお父様の夢(理想)を在世中に必ず成し遂げる為に、昼夜を分かたず完全投入の日々を歩んでおられます。私たちもお母様と同じ心を持って、歩調を合わせてまいりましょう。

神氏族メシヤ勝利を通した救国救世基盤の造成の高地に向かって雄々しく前進し、天地人真の父母様に栄光と喜びと感動をお捧げる1年としてまいりましょう。

2017年・年頭の挨拶

天の父母様の夢を実現する 家庭連合に

総務局長

平井 利明



明けましておめでとうございます。

本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

全国の食口、祝福家庭の皆様におかれましては昨年、どのようにして時間が過ぎていったか分からないほど忙しく時間を送ってこられたことと思います。

特に、昨年後半期には真の父母様が親しく日本を訪ねて下さり、愛と精誠をこめて下さいました。あらためて日本に希望を持っておられることを実感した1年でした。

そして、天の父母様の夢が真の父母様を通じて実体的になされていく時が来たことを目撃いたしました。

真の父母様が地上におられる時に、生きて祝福を受けることがどれだけ感謝であるかを強調され、孝行の道理は親が生きている時に果たすべきであることを願われました。

家庭連合時代は真の父母様の子女として生きている時代です。いつまでも透明な人生を生きて、天の父母様の夢を実現していく主役となる覚悟と決意をもって歩む家庭連合となっていきたいと思います。

新しく2017年を迎えるにあたりVISION2020まで、さらに霊界まで神氏族メシヤを勝利する機会はずべての食口、祝福家庭に与えられています。

正道を行かれる真の父母様と一体となって勝利していきたく決意する次第です。

今後とも天の父母様と国民から信頼を受けることのできる私自身となるべく、日々自己点検をしながら、どのような困難をも成し遂げることができるという確信をもって2017年をやり遂げてまいりましょう。

地域・社会から信頼と尊敬を 勝ち取り“世の光”となろう

伝道教育局長

矢野 治佳



新年明けましておめでとうございます。

み旨のために精誠を尽くし努力される公職者、食口の皆様に心から感謝申し上げます。

VISION2020に向かう後半3年半の路程を「天への孝情、世の光に」というスローガンを天から与えられ出発した2016年でした。「神氏族メシヤの勝利による救国救世基盤造成」の掛け声のもと、伝道教育局は「地域家庭集會定着と教育システムの構築」をその第一歩として位置づけ推進してきました。

全国で地域家庭集會が行われ、そこに参加した人たちが集った復興大会が1000名、2000名、3000名規模で開催されるようになりました。さらに神氏族メシヤ活動をより活発化するために、「認定家庭教会」の制度も打ち出され、認定式が各地区で開催されました。

さて、今までの伝道のポイントをシンプルにまとめてみると「伝道前線活動」と「受講決定」となります。これからの伝道のスタイルを展望するとすれば「地域家庭集會」と「2日研修会」です。生活圏の証しを通じた「信頼関係の構築」と「み言による価値転換」がその核心となります。

勝利された天の父母様と真の父母様を堂々と証しする、つまり自叙伝からはじまり統一原理、祝福、聖和、清平役事を紹介できる時代が来ています。私たちが持つ「結婚と家庭」、「死と永生」、「平和と共生」、「信仰と霊性」といったテーマに対する価値観を、今の社会が持つ課題に対する解決策として提案し実践していく時が来ているのです。

全食口が神氏族メシヤ(家庭教会)として活動し、地域・社会から必要とされ、その信頼と尊敬を勝ち取ることのできる、世の光となれるように前進してまいりましょう。

2017年・年頭の挨拶

親孝行は宇宙の根本に至る道

復興局長
バン サンイル
方 相逸



待望の希望に満ちた新年が明けました。祝福家庭の皆様
の家庭に福が満ち溢れることを祈願します。

2016年は多事多難の1年でした。しかし、困難を乗り
越え、よく耐えて希望に満ちた新年を迎えることになりま
した。

どんな年よりも難しかった日々でしたが、宋龍天総会長
と徳野英治会長を中心に、VISION2020 勝利のため一致
団結することで、多くの発展がもたらされてきたと思いま
す。

特に復興局としては、2016年の年間目標 100%の勝
利とともに 10ヵ月間連続で勝利できたのは、実に驚くべ
きことで、これまでになかった奇跡のような実績でした。
困難な中で、これほど大きな実績をくださった天の父母様
と真の父母様に無限の感謝と栄光をお捧げします。

また現場の牧会者・婦人代表とすべての中心食口が、母
の国の使命と責任を達成するために昼夜を問わず努力した
結果だと思えます。本当にありがとうございました。

2017年は丁酉の年、鶏の年です。鶏は、一般的には先
見の明があり、将来に対処する能力と時を知らせる予言者
の使命があると言います。しかしその一方で、持久力が足
りず、仕上げがうまくできないという短所もあります。

宇宙の根本は、親子の関係と言われます。即ち、親孝行
は宇宙の根本に至る道なのです。

孝子は、親に苦勞をさせたり、心配をかけることはありません。

真の父母様が地上におられる間に親孝行をすべきであ
り、地上におられなければ親孝行という言葉は成立するこ
とができない、というみ言を骨に深く刻み、2017年には
真の父母様の前に真の孝子の姿で日々を生きることをお誓
いします。

今こそ、神様の夢を 実現する時

広報局長
鴨野 守



新年あけましておめでとうございます。

「みなさんが小さいとき、明日遠足があるというとき
にお母さんがきちんと弁当を作ってくれるか心配で眠れな
かったという人はいますか」。地方教会でこう尋ねると、
みなさん笑いながら「そんなことはなかった」と言います。
みな、自分の父母を心から信じているからです。

私は続けます。「そうであるならば、VISION2020 を発
表された真の父母様が、私たちが勝利できるように、準備
をなされているということをどれだけ信じていますか」と。

ノアを励まし、モーセを導き、イエス様と共にいた天の
父母様（神様）が今、私たちを導いてくださっています。
広報を担当する中で、そうした天の導きを感じる昨年でし
た。

私たちの統一運動のイベントを昨年取り上げたメディア
報道は数十件に上りますが、そのうち県紙やテレビ局が「後
援」し、報道したものが4件ありました。また、地域振
興に貢献した食口、防犯活動で表彰された食口、自営業が
注目されての報道、大家族のほほえましい様子が特集され
るというケースがNHK、民放、地方紙で報道されました。
まだ数的には多くありませんが、「ために生きる」活動が
社会の注目を集め、次第に長子権を得つつある現象と考え
ます。今年、こうした流れを加速させていきましょう。

「いつもあなたが笑顔を絶やさず生き活きとしているの
はなぜですか」「あなたの家族が、いつも仲が良いのはな
ぜですか」と聞かれるような家庭を築き、天の父母様と真
の父母様の夢の実現に向けて、共に力を合わせてまいりた
いと思います。

2017年・年頭の挨拶

“新しいぶどう酒は新しい 皮袋に入れなさい”

総合企画局長
クォン サンギ
権 相基



2017年希望の新年が明けました。母の国・日本は、
VISION2020 に向けてさらに飛躍していくべき重要な年
を迎えることになりました。

聖書「ルカによる福音書」5章38節には、「新しいぶ
どう酒は新しい皮袋に入れるべきである」との聖句があり
ます。当時のユダヤ人はぶどう酒を作るとき、羊の皮袋に
入れて自然発酵させました。発酵が終わったぶどう酒は古
い革袋に入れておいても大丈夫ですが、新しいぶどう酒は、
発酵過程でガスを出して膨張する性質があるため、革袋も
自然に伸びなければなりません。このとき伸縮性のない古
い革袋は、ぶどう酒の発酵過程に耐えることが出来ず、裂
けてしまったと言います。それで発酵中の新しい酒は、古
い革袋ではなく新しい袋に入れるべきだと言っているのだ
です。

日本統一教会が家庭連合に名称変更した実質的に最初
の年である2016年、1年を通じて宋龍天総会長を中心
として、今の摂理的な時と家庭連合時代の祝福家庭の信仰
姿勢と組織文化などについて教育を行いました。またこれ
を中心にした家庭連合時代に関するフレームを定着させる
ため努力してきましたが、まだそれに対する理解が本部や
現場において十分には浸透していません。

したがって家連連合の2年目を迎えた今年は、宋総会
長と徳野会長を中心に、すべての責任者と食口が一つとな
り、2013年から始まった「改革の定着と社会的価値を創
造する年」という目標を成就していく1年としなければな
りません。

家庭連合時代のフレームを完全に定着させるためには、
まず摂理的な方向を中心として、“選択と集中”を行い、
これを成すために互いに“疎通と共有”を通じた集団知性
を発揮していく必要があります。そうしながら食口と二世
圏が誇りに思う家庭連合、国民と国家から信頼され尊敬さ
れる家庭連合を創っていくよう努力する1年としてまいり
ましょう。

三代圏理想家庭づくりの 飛躍の年に

家庭教育局長
阿部 美樹



新年明けましておめでとうございます。

昨年は「幸せな家庭 健康な教会 国家と世界に貢献する
統一運動」のビジョンを実現するために土台づくりをして
きました。その出発点が「幸せな家庭」です。そのため、
家庭教育局では2016年度家庭教育指針として「三代圏
家庭確立を通じた祝福家庭の幸福実現」を掲げて歩んでき
ました。

食口の家庭だけでなく、日本全体において深刻な課題と
なっているのが「家庭」です。

日本では2015年の年間出生数が100万人の大台を割
り込み、ピーク時の3分の1になりました。人口も年間
31万5000人が減少するという過去最多を記録しました。

その現象の背後には晩婚化、非婚化、少子化の影響があ
ります。若者たちが結婚や家庭に対する希望を失い、家族
の絆よりも個人主義に基づいて生きる傾向を強めているの
です。

今こそ、家庭連合が祝福を中心として「真の愛」と「家
庭」の大切さを再確認し、この課題を克服していかなけれ
ばなりません。

昨年「二世圏祝福推進委員会」を発足させ、青年祝
福の推進に力を入れてきました。祝福適齢期になった青年
たちを祝福に導くことが重要テーマとなっています。

もちろん、祝福を受けることがゴールではなく「三代圏
理想家庭づくり」を目指して、家庭での信仰生活の定着と
家族の関係性の向上が必要です。

各家庭が抱えている課題は、家庭単位で更なる成長をす
る糧として天の父母様が与えて下さる訓練、試練として受
け止め、乗り越えて行きましょう。

2017年・年頭の挨拶

天が立てた中心と一つとなつて歩もう

法務局長

近藤 徳茂



新年明けましておめでとうございます。

昨年は、VISION2020 勝利に向けた7年路程が後半の3年半の路程に突入し、真のお母様を中心に激しく摂理が進展しました。正に、奇跡に次ぐ奇跡が現実のものとして展開した年でした。

今年も、真のお母様を中心に摂理が激しく進展していくことを確信致します。そして、子女たる私達が、いかに真のお母様と心情を一つとし、各自の使命である神氏族メシヤを達成できるかが更に問われてくる時代を迎えたと実感致します。

ところで、真のお母様との心情一体化はどうしたら成されるのでしょうか？真のお母様は、「ウリヌン・ハナダ（私達是一つだ）」というモットーを強調されますが、私達は「ウリヌン・ハナダ」と唱えていれば真のお母様との心情一体化がなされるのでしょうか？

『原理講論』には、象徴献祭に成功したノアと情動的に一体化すべきであったハムが、自己の基準で天の側に立っていたノアを批判したため、一体化できなかったと記されています。

このことを踏まえ、『原理講論』には「我々が神への道を歩むに当たっては、どこまでも謙虚と従順と忍耐の心が必要不可欠」と記されています（後編第1章第二節）。

そして天が立てた中心と一つとなることの重要性は、天一国時代を迎えた今の時代にも当てはまるのではないのでしょうか。

今年も実体の天一国の実現を目指して皆様と共に歩めますことを心より感謝致します。

南米レダ摂理の進展に向けて決意新た

宋総会長が記念説教

南米パラグアイにおける「レダ摂理」を支援する日本人国家メシヤの新年礼拝・新年会が1月7日、東京・渋谷の松濤本部で開催され、約180人が参加しました。

宋龍天総会長は記念説教で、困難なレダ摂理を見事に勝利に導い

た国家メシヤを称賛するとともに、VISION2020に向けた今年の戦略を力強く披露しました。

昼食の後、エンターティメントやレダの報告がなされ、参加者からは「いくつになろうと、み旨に定年はない」と決意を新たにする声が聞かれました。



①日本人国家メシヤの新年会の参加者 ②説教を行う宋総会長 ③美しい歌声を披露した女性歌手 ④宋総会長のメッセージに耳を傾ける参加者

神氏族メシヤ活動の元年に

徳野会長ご夫妻が長野を訪問

1月7、8日の両日、徳野英治会長ご夫妻が北長野教区の長野、上田、佐久各家庭教会、南長野教区の松本、安曇野各家庭教会を訪問し、地元の食口、祝福家庭に慰労と激励のメッセージを贈りました。

徳野会長は、昨秋の真のお母様のご来日の様子を紹介しながら、「今度は長野県で1万名大会を実現し、真のお母

様をお迎えしましょう！」と強調。その上で、今回の集会を「神氏族メシヤ出征式」と位置づけ、「今年を神氏族メシヤとして本格的に取り組む元年にしてください」と訴えました。

参加者一同、徳野会長ご夫妻の真の愛に包まれ、熱い感動と神氏族メシヤ勝利に向かう決意を固めるひと時となりました。



①南長野教区1月度出発特別集会（松本家庭教会）②メッセージを語る徳野会長（長野家庭教会）③挨拶をする徳野久江夫人（佐久家庭教会）④徳野会長のメッセージを聴く参加者（上田家庭教会）⑤会場を魅了した上田家庭教会の聖歌隊

2017年元日「初詣 早稲田・高田馬場聖所巡礼」に200人

晴天に恵まれた2017年元日、真のお父様の日本留学時代のゆかりの地を巡る「初詣 早稲田・高田馬場聖所巡礼」（主催・歴史編纂委員会、同巡礼の会）が都内で行われ、参加者はお父様が青春の日々を過ごされた聖所を巡りながら、お父様の生涯に思いを馳せました。

今年で7回目となった元日の聖所巡礼には、首都圏を中心に全国から例年以上に多くの巡礼者が参加。午前10時集合の部には120人、午後2時からの部には80人が集まり、合計約200人がお父様の足跡

をたどりしました。

巡礼者は、まずJR高田馬場駅（東京都新宿区）前に集合。歴史編纂委員会の井口康雄部長による概要説明に続き、お父様が日本宣教のために送られた崔奉春（西川勝）宣教師から1959年12月に日本で最初に伝道された増田勝「巡礼の会」会長からメッセージを受けました。

最初の巡礼地は、1959年10月2日に最初の礼拝が捧げられ、日本家庭連合創立の地となった「雄鶏舎時計店」の跡地。この場所では、増田会長が家庭連合創立当時

の様子を紹介しながら、貴重な証しを行いました。続いて、旧戸塚警察署跡地を経由して、お父様の下宿先だった「三橋家」跡を訪れました。

最後に、一行は早稲田大学の構内でお父様が留学時代に学ばれた校舎跡などを見学。早大の象徴である大隈講堂を背景に記念撮影を行った後、解散しました。



①早稲田大学「大隈講堂」を背景に記念撮影 ②JR高田馬場駅前に集まった巡礼者